

人口122,321人
男 60,006人
女 62,315人
世帯 25,220
5月1日現在

発行所
小田原市役所
小田原市幸1の138
編集兼発行人
浦 寅 松
文進堂印刷所
全世帯配布

おだわら

報 告

第122号
昭和35年6月1日
昭和29年10月15日
第三種郵便物認可
毎月1日発行
定価1部3円

- 6月のこよみ
- ◆函の衛生週間 (4-10日)
- ◆水道週間 (6-12日)
- ◆時の記念日 (10日)
- ◆国連憲章調印記念日 (20日)
- ◆夏の健康を守る運動 (21日-7月20日)
- ◆救らいの日 (26日)

小田原城天守閣が完成



天神山から見た天守閣

そのむかし戦国の世に一代の風雲児北条早雲が居城として以来、小田原の城は天下の名城として広く知られ、その後歴史の上に数々の物語を生んできたにもかかわらず、たゞいらずに苔むした石垣と青い堀の水あるいはそびえたつ老松にむかしを偲ぶのみとなつて来たことは、郷土を愛する小田原の市民はもとより、ここを訪れる人々にとつても何かしら物足りなさを感ぜさせていたのであります。天守閣を再建したい—これは久しい間市民共通の声でありました。明治維新の藩藩置県にともない、同三年天守閣が取り壊されて以来その城址には一時小田原県庁、続いて足柄県庁が置かれ、さらにその後宮内省の御用邸が設けられましたが、大正十二年に至り關東大震災によつてその御用邸も壊滅したばかりか、巨大な地城にわたる石垣もことごとく崩壊し、爾來二の丸跡に学校、公園等が設けられた以外、本丸跡は久しく荒廃に帰していつたのであります。

この由緒ある史跡をいかに放置するにせよ、昭和二十五年市の制施行十周年を期しこの城址を整備し、ここにとも文化博覧会を開催したのを契機として、児童遊園地、動物園等の施設を作り、あわせて天守台石垣の復旧工事を行つたのであります。これによつて将来天守閣再建の日のきたらんことを期したのであります。この石垣復旧工事は一部市民の「石一種運動」による篤志家も盛り込まれたのであります。その後城址公園は小田原の史跡として、さらに児童のための遊園地としてますます整備され、一般の観光客をも迎え、逐年これを

「ご協力に感謝」
小田原市長 鈴木十郎

訪れる者が増加し、いよいよ広く知られるに至つたのであります。一方天守閣再建に対する市民の熱意は、これによつて一層たかまり、商工会議所においても天守閣再建運動を広く呼びかけるなど、その動きも次第に活発になり、一般の人々から絶大な熱意を寄せられ



市民の宿願ここに実る

連日参観者でにぎわう

市制二十周年記念事業の一つとして、昨年二月から再建工事が進められていた小田原城天守閣は、このほど見事に完成し、明治三年の陥城以来、小田原市民の宿願であつた天守閣の再建はここに実を結びました。

十二万市民喜びのうちにその完成式は、五月二十五日(日)午後九時三十分、天守閣四階で市長、議長をはじめ市議会議員、関係団体の代表約五十名が出席して、神事がおこなはれ、ついで本丸跡広場の式場で完成式が行なわれました。

式典は原助役の経過報告、鈴木市長の式辞、山橋市議会議長のあいさつに続いて市長から設計者藤岡博士、株式会社建築美術研究所、施工者松井建設株式会社及び(しゃち) 鋳造家慶寺丹長氏にそれぞれ感謝状と記念品が贈られました。引き続き鈴木貴介氏作詩、雨宮伊之助氏作曲の「小田原城天守閣讃歌」が小田原高生徒の伴奏、城内高生徒の斉唱により発表された後、来賓の祝辞、祝電のひろうなどがあつて完成式典を終りました。

午前十一時四十分、天守閣四階で打ち鳴らす大太鼓を合図に、市長が天守閣入口にはられた紅白のテープを切つて登城。招待者も市

また「瓦一枚運動」についても全市のほとんどの世帯から予期以上の協力を得たばかりか、さらに在日米人の多数の方々から篤志が寄せられたことは感激に堪えぬところでありました。あの天守閣の高樓の屋根の瓦に配された署名は、その厚志と共に永久に残ることと信じます。

この建築に当たつて、設計者東京工業大学教授藤岡通夫博士の御努力に深く感謝し、また良心的な工事を行つた松井建設株式会社に対してその労を多とするものであります。明治三年以来ここに九十年、箱根丹沢の山々を背景に、洋々たる相模湾をのぞんで、高くそびえる白亜の天守閣の偉容が我々の郷土愛の象徴ともなり、また広くここに訪れる人々の心を豊かにするものがあれば、わたくしの本懐とするところであります。

完成式典に一千三百名

天守閣の完成祝賀式は、快晴に長に続いて城内を参観した後、式場にもどり祝賀を開いて完成式典は盛會に終りました。

午後一時からは一般に公開され、約四千五百名が城内を参観したほか、野外ステージでは、祝賀行事のトップを切つて三曲演奏として舞が行なわれ、城内や広場は、家族連れの市民をはじめ、遠来の観光客、修学旅行団体などで埋まり、非常な混雑ぶりでありました。なお、祝賀行事は六月五日まで催されます。

天守閣の構造規模

天守閣 鉄筋コンクリート造り
本がわらぶき、三層、地上四階地下一階
純櫓(つぎやぐら)
鉄骨造り、一層一階
建物面積
天守閣 延一、六六八・八五八平方(五〇四・八二九坪)
純櫓 一五三・八九四平方(四六・五五二坪)
総面積一、八二二・七五二平方(四五一・三八二坪)
高さ
四〇・七〇(本丸広場から純櫓先端まで)
内訳 石垣高一・五(一・五) 天守閣二七・二(二・〇)
なお、建設費総額は約八千万円で、財源は、国際観光事業債二千万円、県費補助一千万円、市費二千五百万円、寄付金一千五百万円でありました。(各階の紹介、入場料等は別掲のとおりです)

水道週間に巡回サーブス
市の水道課では、六月六日から十二日までの水道週行事の一環として、次により水道の相談受付等の巡回サーブスを行ないますので、ぜひご利用下さい。

六月七日(土) 板橋、風祭、入生田、早川
八日(日) 幸、新玉、万年、中島、町田、今井、山王原、網一色
九日(月) 緑、谷津、狭野、池上、井根田、多古、穴部、久野
十日(火) 酒田、小八幡、国府津、十一日(水) 鴨宮、中里、矢作、下新田



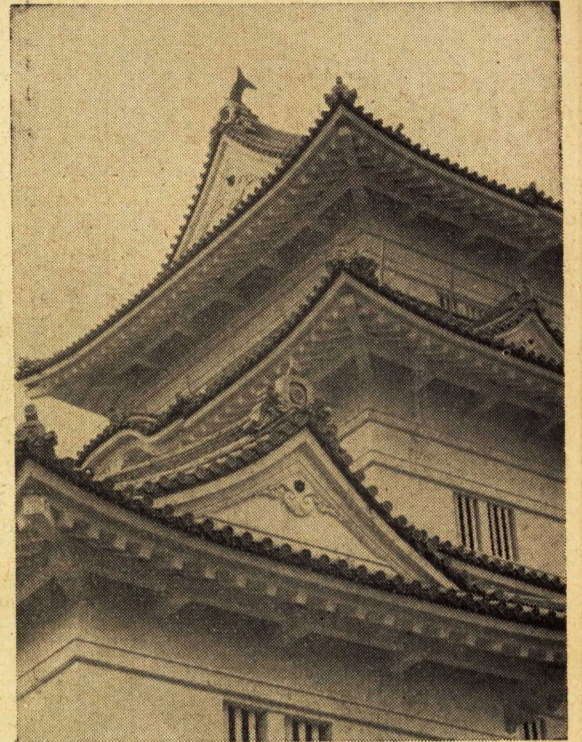
写真でみる 天守閣と祝賀行事



時代風俗行列における北条早雲



完成祝賀式における市長の式辞



手前は続櫓(つづきやぐら)



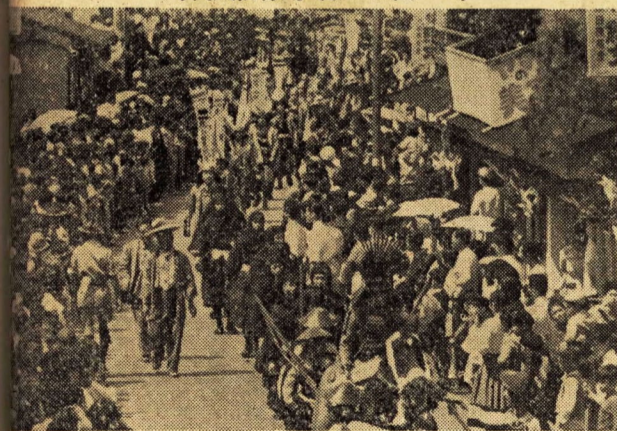
時代風俗行列(水の公園入口)



完成祝賀式



一階



時代風俗行列(参観者で埋まる箱根口)

各階の紹介

一階 物産観光の展示場
二・三階 小田原城関係史料及郷土資料展示場
中四階 天守閣工事写真及び全国城郭写真展示場
四階 展望台

開場閉場時間
午前九時～午後五時

入場料

◎一般
大人(十五歳以上) 一人につき三十円
小児(六歳以上十五歳未満) 一人につき二十円

◎団体
幼児(四歳以上六歳未満) 一人につき十五円
※ただし、大人に随伴されている幼児は二人まで無料

◎団体
一般(三十人以上) 一人につき二十五円
高校生(三十人以上) 一人につき二十円
小・中学生(三十人以上) 一人につき十五円
幼児(三十人以上) 一人につき十円

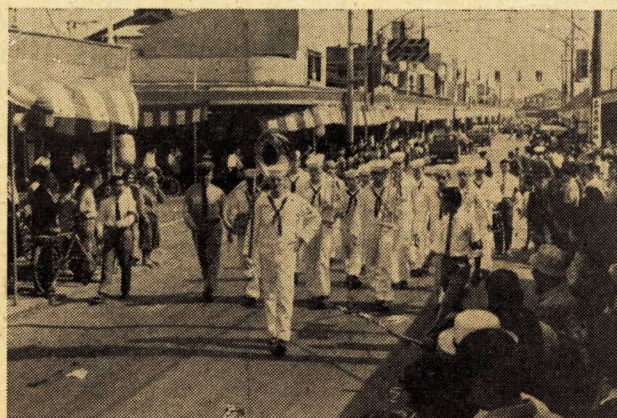
※ただし、高校生、小・中学生及び幼児の引率者は三十人以上につき一人は無料。



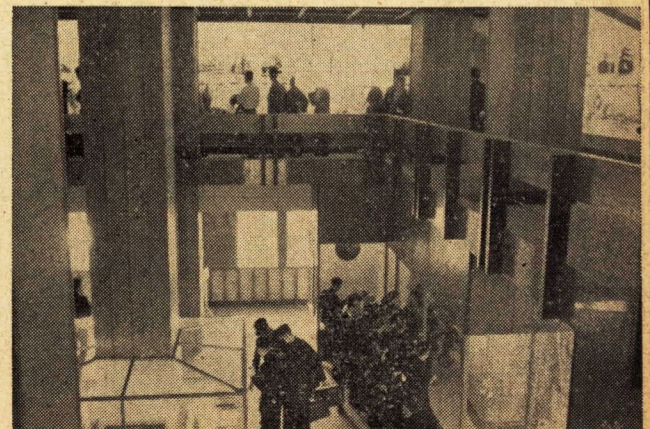
二階



米陸軍軍楽隊の市巾行進



米海軍軍楽隊の市巾行進



三階・中四階

推進された建設・福祉事業

一般会計 九億五千万円を突破

市では、さる五月一日、昭和三十四年度下半期分(昭和三十四年十月一日〜同三十五年三月三十一日)の財政事情を公表しました。ご承知のとおり昭和三十四年度における市財政は、三十三年度の黒字財政の後を受けて、ますます充実しておりますが、今回の公表で特に注目されるのは、①まず一般会計で処理する公営住宅、保育所の建設費、大宮橋橋りょう架設費、下水道整備事業費、道路整備費など投資的経費を重点に人件費その他の諸経費を含めて総額約一億三千三百万円が追加され、建設、福祉事業が積極的に推進されたこと②この追加により三月末の現計予算額は約九億五千四百万円とかつてない大きな財政規模となったこと③かかる現状から今後の財政運営は極めて明るく、収支の執行においても順調な成果を収めつつあることがあけられます。次に公表の概要を説明いたします。

財政事情の公表

34年度下半期分

一般会計

総額約一億三千百万円を追加

予算の概況

追加され、また期末三月には県予五二% (前年度五〇・三四%) を算との関係により一部事業が繰り越したため、関係予算七百万、国庫支出金、市債の順となつております。この追加により今期において施行された事業は、別掲のとおりであり、これら追加支出に伴う財源には、市税、地方交付税、競輪事業からの繰入金、国庫支出金、市債その他諸事業に伴う寄付金及び雑収入等が認められました。

予算執行の概況

一般会計予算の三月末日現在における執行状況は別表に示すとおり、総予算額に対し、収入は八三・七六% (昨年同月八八・一八%)、支出は七八・八七% (昨年同月八二・二四%) となつており、おむね良好な執行状況であります。また歳出では、土木費が最高で総額の二七・六一%を占め、次に市役所費、社会及び労働施設費の順となつております。

特別会計

予算の概況

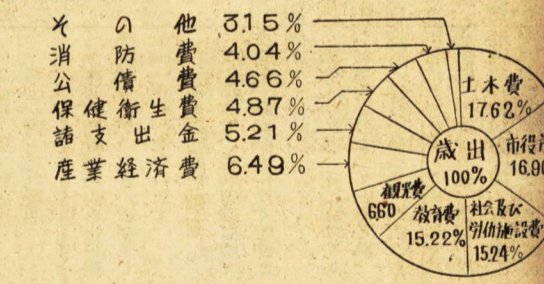
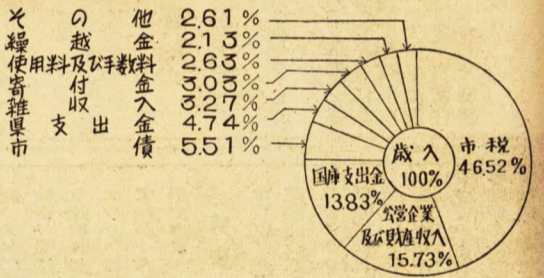
競輪事業会計ほか六特別会計予算の三月末日現在における収支割合は次のとおりであります。執行状況の説明は紙面の都合で省略いたします。

会計名	収入	支出
競輪	九九・四九%	九七・九%
水道	八六・八%	八三・三%
公益質屋	九七・七%	七五・五%
国保	八二・五%	八五・七%
国庫	九二・六%	九二・六%
市立病院	八八・六%	八七・七%
厚生年金保険積立金	一〇〇・〇〇%	一〇〇・〇〇%
選元融資積立住宅	一〇〇・〇〇%	一〇〇・〇〇%

34年度一般会計

歳入歳出予算

(昭和35年3月31日現在)



写真(上) 災害復旧・改良工事完成の米神漁港 (下) 完成した栂山住宅

一人あたり 財産約二万円 負債約五千万円

市有財産・市債・一時借入金

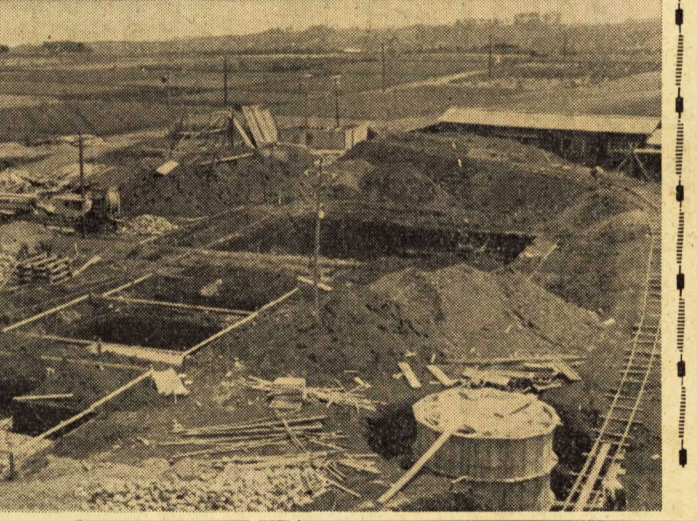
市債

おもしろな事業

34年度下半期分(単位万円)

住民負担の概況

一人あたり約 三千六百元



写真は工事中の尿処理場

市債

おもしろな事業

34年度下半期分(単位万円)

歳入		収入	収入割合
市税	444,053,167円	425,750,671円	95.88%
国庫支出金	13,048,000	13,048,000	100.00
公営企業及び財政収入	150,182,811	140,805,841	93.76
他	11,851,920	8,190,281	69.11
税金	25,072,040	25,281,834	100.84
手数料	132,030,524	85,396,282	64.68
入金	45,198,542	23,097,693	51.10
入金	28,951,240	20,009,491	69.11
入金	31,217,738	28,042,084	89.83
入金	52,600,000	9,600,000	18.25
入金	20,243,050	20,243,050	100.00
入金	954,449,032	799,465,227	83.76

歳出		支出	支出割合
土木費	19,697,845円	18,979,846円	96.35%
市役所費	161,264,489	152,538,542	94.59
社会及び労働施設費	38,528,337	36,179,180	93.90
教育費	168,157,304	116,170,978	69.08
衛生費	145,300,128	122,870,065	84.56
労働費	145,448,702	123,303,716	84.77
労働費	46,442,545	20,394,671	43.91
労働費	61,897,800	34,941,513	56.45
労働費	63,026,181	32,554,581	51.65
労働費	4,112,340	4,098,571	99.67
労働費	781,482	388,851	49.76
労働費	4,771,709	3,280,166	68.74
労働費	44,514,478	44,308,527	99.54
労働費	49,711,547	42,774,419	86.05
労働費	794,145	—	—
労働費	954,449,032	752,783,626	78.87

人権特設相談所の開設

